

第1回
ユニパス
コンベンション



2026.2.14
サンメッセ香川

0

自己紹介

1

はじめに

2

事実の把握

3

私たちの活動対象

4

目指すビジョンと実現に向けたアプローチ

5

具体的な支援の仕組み

6

具体的な施策

7

まとめ・おすび



About me



55 years old



Yokohama city



wife(?? years old)

sons(19&15 years old)

Hideo Hamaoka

Work



株式会社インテック シニアコンサルタント



株式会社エッグシステム 顧問



NPO法人親の育ちサポートかがわ 理事

Personal History

- ✓ 小中高ではいじめがあり、とても辛かった（不登校直前）。
- ✓ 社会人4年目に特定疾患を発症。入退院を繰り返す。現在も完治せず。
- ✓ 激務が続き、人間関係もうまくいかず8ヶ月休職（企業内不登校）。
- ✓ 休職中は処方された薬を1粒も飲まず、自分を見つめ直す。
自分なりの仮説と答えを持って復職。だめなら辞めるつもりだった。
- ✓ 復職後、半年で60人のプロジェクトの責任者、翌年に課長、翌年に副部長、
翌年に部長と毎年昇進。開発部長、事業企画部長を歴任。
- ✓ 部長から退いた後は、障がいのある方々や子どもに関する取組み、経営
コンサルなど、プライベートでも活動を開始。

1. はじめに

- ✓ 近年、日本では子どもや若者の“**生きづらさ**”が深刻化しています。
- ✓ 生きづらさの原因やそれによる事象は多様化し、その数も増加の一途をたどっています。

約**42**万人

不登校者数 (小中学生35万人、高校生7万人)

約**55**万人

ヤングケアラー (小学6年生7万人、中学生18万人、高校生12万人、大学生18万人)

約**52**万人

特別支援学級在籍者数

約**15**万人

特別支援学校在籍者数

約**4**万人

社会的養護者数 (児童養護施設、児童自立支援施設、里親委託児童など)

約**135**万世帯

ひとり親世帯 (母子家庭120万世帯、父子世帯15万世帯)

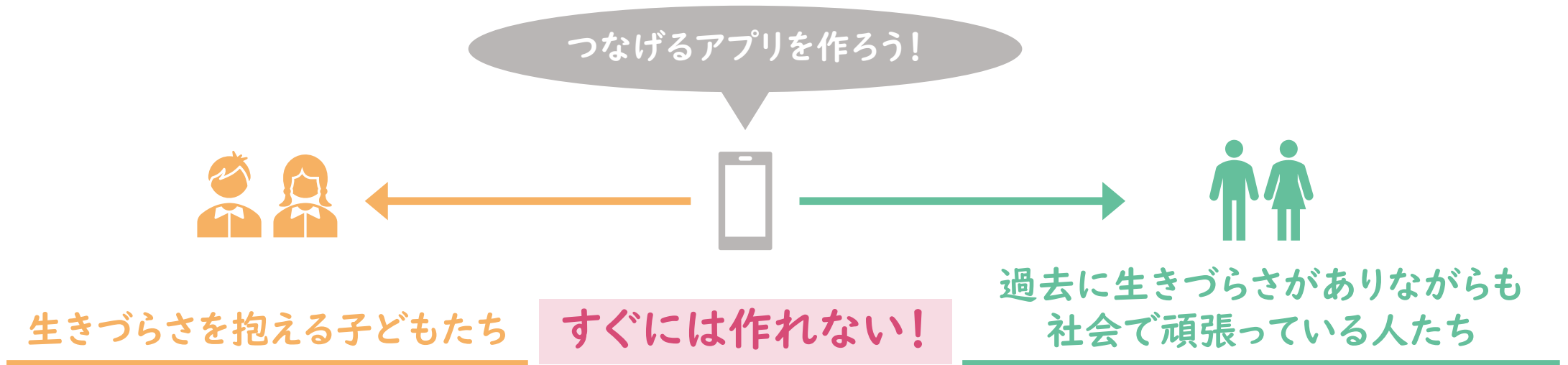
527人

自殺者数 (小学生15、中学生163、高校生349)

※文科省「特別支援学校・特別支援学級調査 第一部データ編」R5年

※厚生労働省「全国ひとり親世帯等調査の結果」R4年

※こども家庭庁「社会的養育の推進に向けて」R5年



身近にどのくらいいるの?

子どもたちはどんな支援が欲しいの?

どんな生きづらさがあるの?

NPO法人だけでできるの?

各団体はどんな活動をしているの?

子どもたちの状況だけでなく
社会の変化も整理した方が良い?

何を目指して、そのために何をするの?

✓ 約1年半かけ、以下の内容を議論、整理してきました。



✓ 今日はコスト以外の6つについてお話しします。



2. 事実の把握 「いま社会で起きていること」

- ✓ 近年、日本では子どもや若者の“**生きづらさ**”が深刻化しています。
- ✓ 生きづらさの原因やそれによる事象は多様化し、その数も増加の一途をたどっています。

過去最多

約**42**万人

不登校者数 (小中学生35万人、高校生7万人)

過去最多

約**55**万人

ヤングケアラー (小学6年生7万人、中学生18万人、高校生12万人、大学生18万人)

過去最多

約**52**万人

特別支援学級在籍者数

過去最多

約**15**万人

特別支援学校在籍者数

約**4**万人

社会的養護者数 (児童養護施設、児童自立支援施設、里親委託児童など)

約**135**万世帯

ひとり親世帯 (母子家庭120万世帯、父子世帯15万世帯)

過去最多

527人

自殺者数 (小学生15、中学生163、高校生349)

※文科省「特別支援学校・特別支援学級調査 第一部データ編」R5年

※厚生労働省「全国ひとり親世帯等調査の結果」R4年

※こども家庭庁「社会的養育の推進に向けて」R5年

香川県内の中学校、高等学校合わせて6校、1,727名にアンケートを実施。

この後の鈴木さんと高橋さんの発表で集計結果と考察を説明します。

- ✓ 一方、子ども本人ではなく社会に目を向けるとここ数年で大きく変化。
- ✓ 今後の子どもの課題の解決の方向性に密接に関係していると思われます。



社会の価値観の変化

多くの人が同じことを一定の生産性で実施する“効率重視”の価値観は残りつつも、“多様性”や“包摂性”が生まれ始めている。

＜これまでの価値＞効率化、平準化、標準化、など

＜これからの価値＞多様性、包摂性、ユニークなど



人口構造の変化

少子高齢化により今後の労働人口は減少の一途をたどり、令和22年には1,100万人もの労働人口不足になると計算されている。

✓ 「人と同じことを生産性や品質高くこなす人材」から、「人とは違う価値を生み出す人材」にシフト

✓ 同じことを生産性や品質高くこなす仕事はAIに移行



AIの急速な進化と普及

様々な場面にAIが存在し、生産性や品質、安全性への貢献は元より、エンターテインメントやコミュニケーションといった体験まで変化

※この社会の変化を捉えた上で、生きづらさを抱える子どもたちへの対応を考えることが重要ではないか

POINT

3. 私たちの活動の対象

✓ 生きづらさを抱えながら、ユニークな道を歩む子どもたちのことを、私たちは「ユニパスさん」と呼んでいます。

POINT

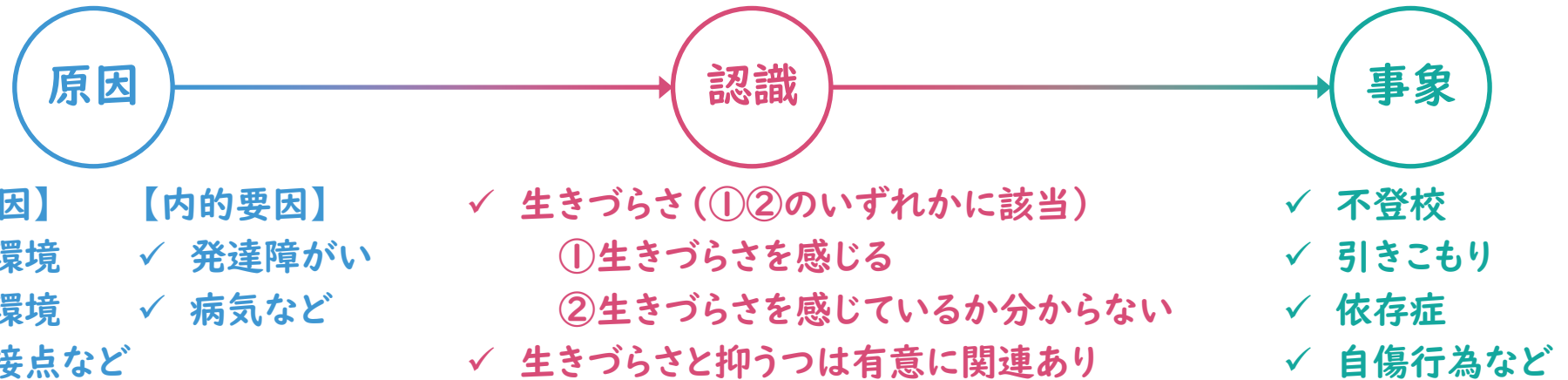
右のいずれかに
該当する子どもたち

何らかの“生きづらさ”を感じている子どもたち

今後“生きづらさ”を引き起こす何らかの背景を持っている子どもたち

“生きづらさ”に起因するユニークな経験をしている子どもたち

POINT



POINT

ユニパスの
3モデル

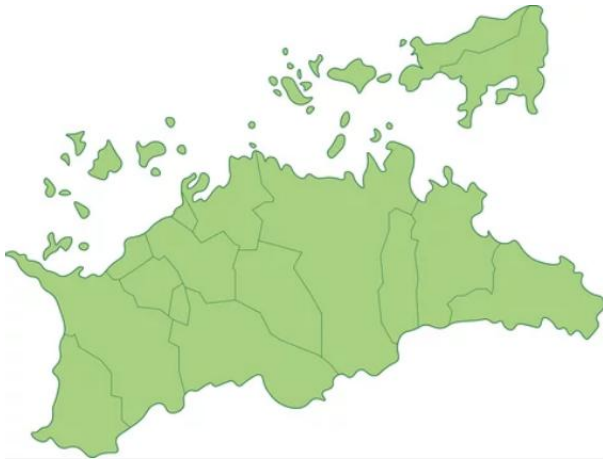
ユニパス

隠れユニパス

ユニパス予備軍

- ✓ 香川県から取組みを開始し、将来的には全国のユニパスさんを支援します。
- ✓ そのために、必要なつながりも全国に求めます。 **POINT**

香川県



日本全国



2/14のユニパスコンベンションに
香川県以外の団体がエントリー

横浜市	一般社団法人（不登校など）
福岡県	株式会社（不登校など）
愛媛県	任意団体（不登校など）
京都府	株式会社（IT企業）
大阪市	株式会社（決済事業者）

群馬県総合教育センターからも
視察に訪れていただいています

4. 目指すビジョンと実現に向けたアプローチ

- ✓ 不登校や依存症など、生きづらさを抱える子どもたちが家庭や学校、社会で孤立せず、安心して自らの道を歩んでいける世の中を創りたい。そのために、私たちは3つの仮説に基づき活動している。

- ① 生きづらさの背景には、社会や人との関係が存在
- ② 不登校などの課題（事象）は、“生きづらい”という認識から発生
- ③ 生きづらさは、大人になっても発生する可能性がある

POINT



生きづらさを抱える子どもたちが孤立せず、
安心して自らの道を歩んでいける世の中を創る



POINT

ビジョン実現に向けた
3つのアプローチ



子どもたちの
認識を変えることに
アプローチ

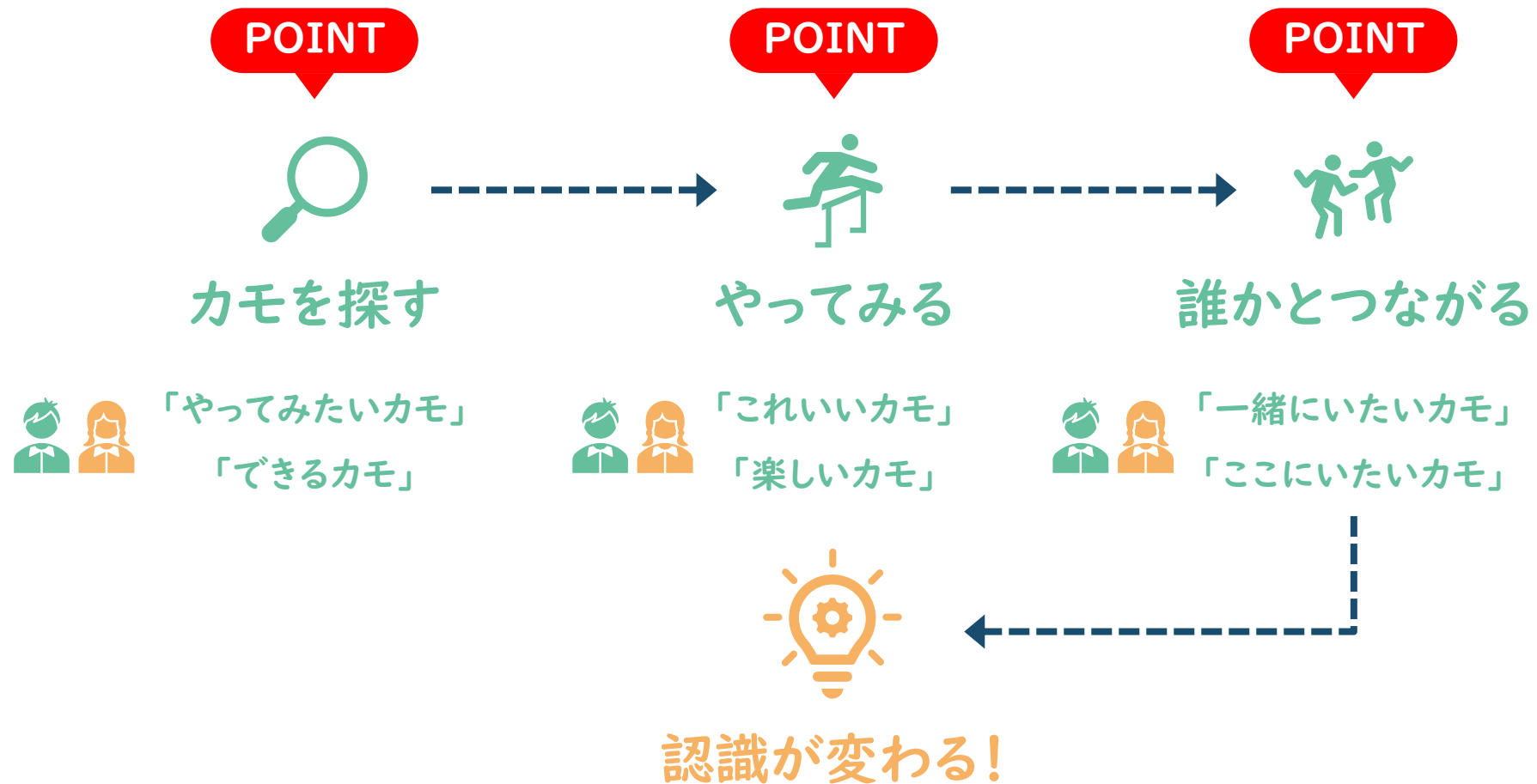


子どもたちと社会や人
との関係を整理、構築する
ことにアプローチ



子どもたちが社会に出た
後に発生する可能性のある
問題にもアプローチ

- ✓ ユニパスさんの“生きづらい”という認識に向き合い、**その改善に取り組めます。**
- ✓ **自己認識は周りの人との接点から変化します。**それをポジティブなものにするには、一緒にいたい人、ここにいたい場所を作ることが重要です。



- ✓ “科学ヘジャンプ”とは、五感を使う感動体験を通して視覚に障害がある子供たちに科学にチャレンジする機会、2008年から毎年全国各地で開催されているもの。



[サイトについて](#)
[サイトご利用方法](#)
[サイトマップ](#)
[お問い合わせ](#)
[日本語](#)
[English](#)

[科学ヘジャンプとは](#)
[新着情報](#)
[活動内容](#)
[活動を応援する](#)
[お役立ち情報](#)



視覚障害のある子どもたちが
科学にチャレンジできる社会へ

これまでの新着情報



科学ヘジャンプとは

五感を使う感動体験を通して
視覚に障害がある子供たちに
科学にチャレンジする機会をつくれます

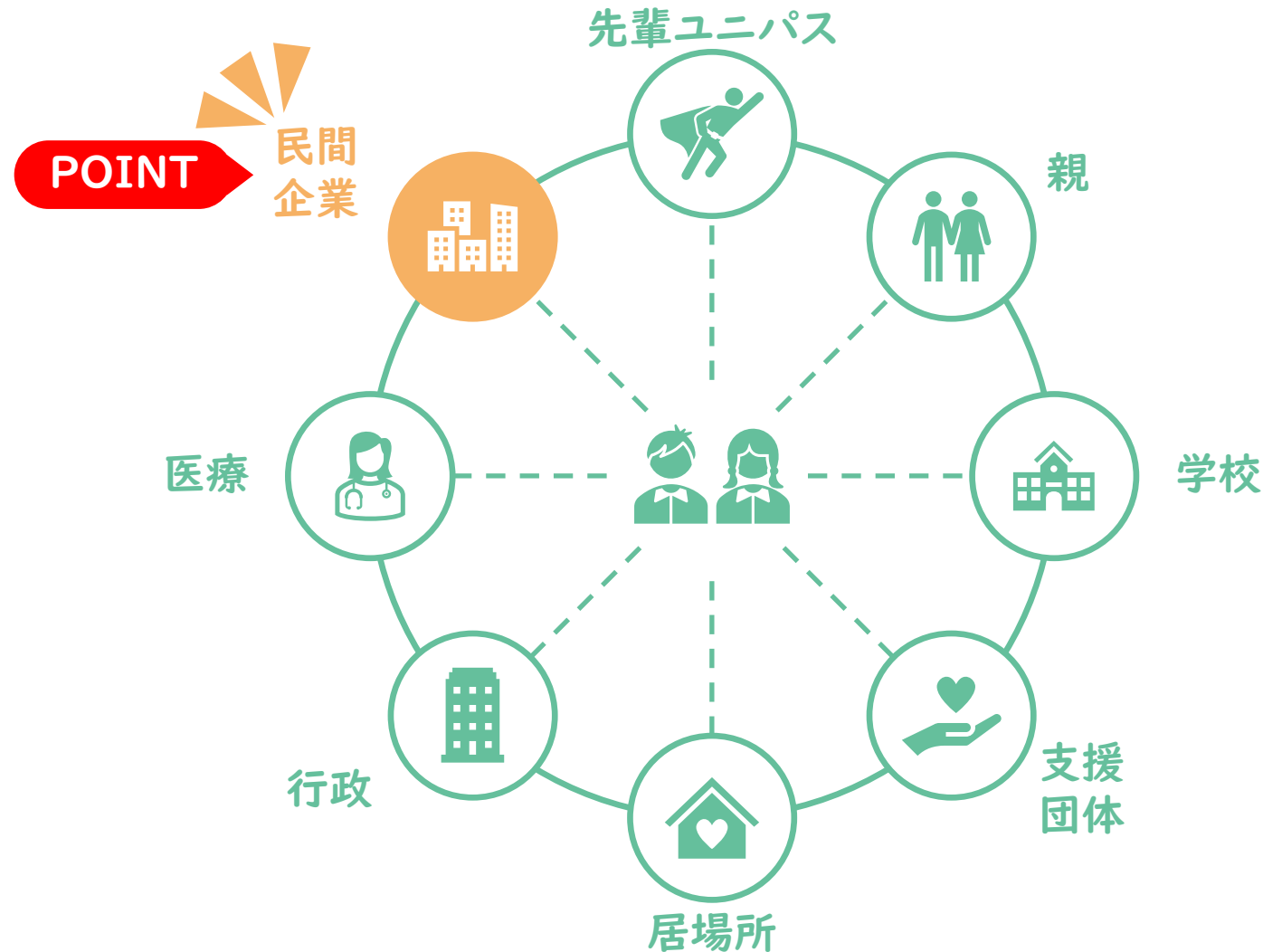


活動内容

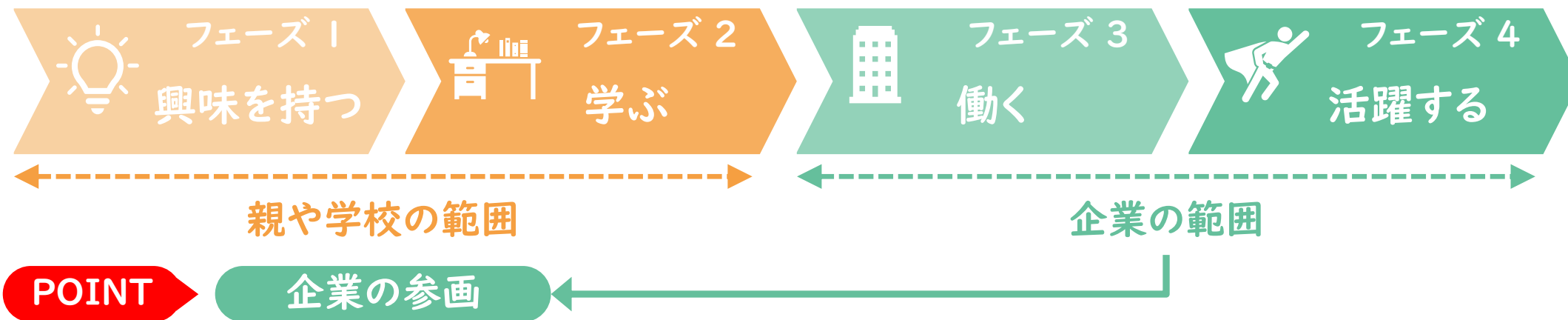
全国規模の活動



- ✓ ユニパスさんに関わってくれる社会や人との関係を整理、構築することに取り組めます。
- ✓ 特に企業との連携が重要になってきます。



- ✓ 目の前の学校や家庭で悩むユニパスさんにとって、その認識の改善に企業が協力していただくと大きな力になる。
- ✓ 下図は就労のプロセスを4つのフェーズに分けたものだが、フェーズ1と2に企業の参画を促していく。



このフェーズは将来社会に出て働き、活躍するために存在するが、ユニパスさんは十分に情報取得や体験ができていない。

その原因が家庭や学校に存在するならば、しがらみのない企業の方々とのつながることによってより向き合いやすくなるのではないか。

そして、学校や親の意見、友達との関係や比較などに囚われず、純粋に興味のあることが見つけられれば、私たちが取組みたい“認識の改善”に繋がる。

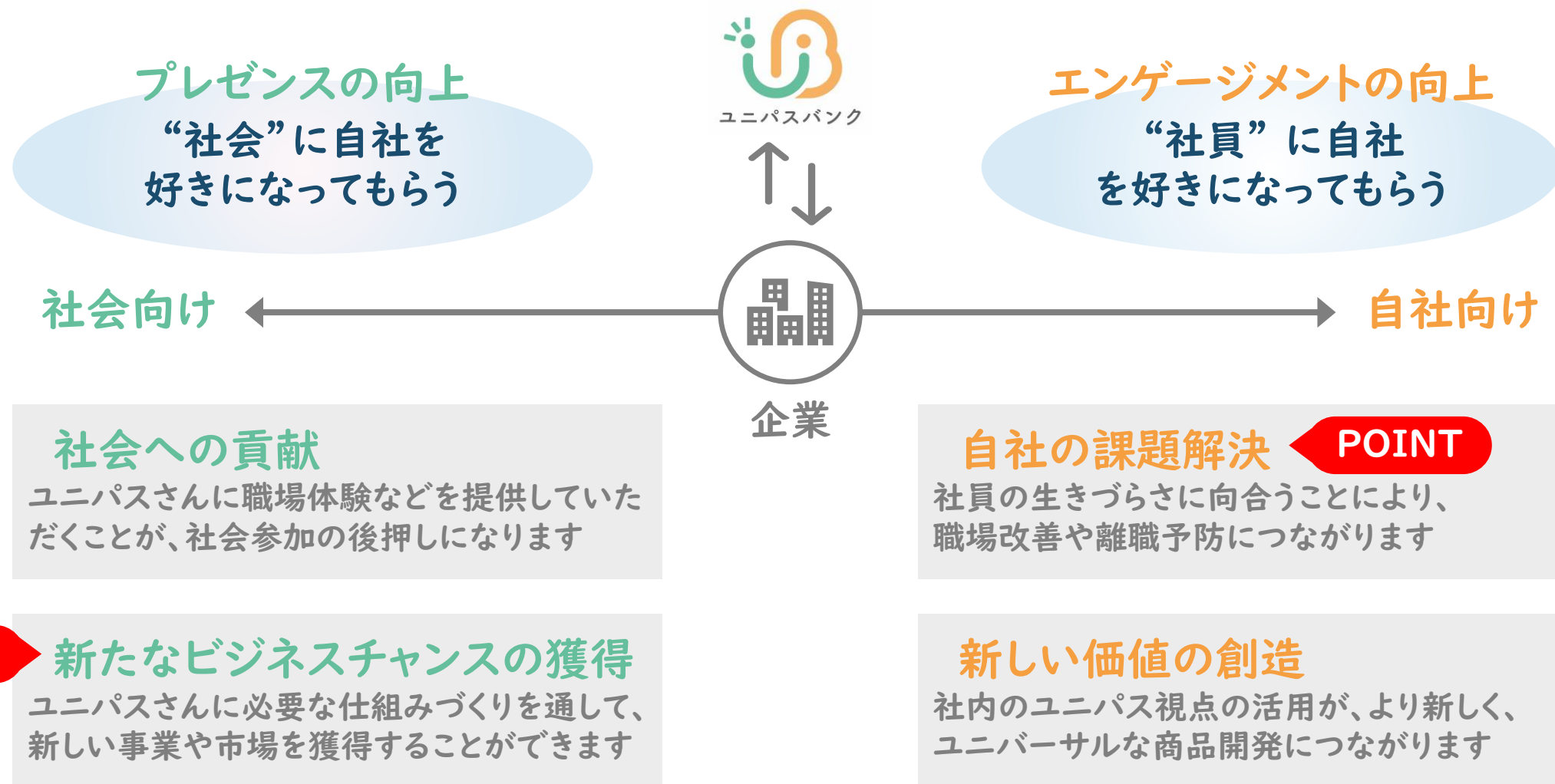
※フェーズ1と2に企業が参画することは、企業側にも価値が存在する。

少子化により社員（労働力）の確保が困難になる中、子どもたちとの接点を増やすことが質と量の両方で労働力の確保に繋がる。

量）人数

質）フェーズ1から子どものスキルアップの情報や特性を把握することができるため、より確実な採用に繋がる。

- ✓ ユニバspbngへの参画は「社会貢献」だけでなく、企業の人材・組織・価値創出にもつながります。



- ✓ 2025年7月より、株式会社エッグシステム（本社：東京、代表取締役：高橋翼）がユニパスバンクに正式に協力を開始。
- ✓ 企画主体のNPO法人親の育ちサポートかがわに、価値をもたらすとともに、同社にも新しいステークホルダーのつながりや事業の可能性などの価値が生まれている。



静岡商業高校特別授業に登壇

県立静岡商業高校特別授業
「働く静岡人」に学ぶ

2/7(水)
LHR
(6時間目)

エッグシステム
代表取締役
高橋 翼

空き家買取専科
子育て広報
三輪 早苗

GSF
ex-Senior Associate
山本 勝則

モデレーター
MiraiResort 副社長
三和新静 GM
三倉 信人

静岡市の社会課題解決コンペに応募

スタートアップと地域の共働による
新社会システム共創コンテスト スタートアップ提案型

BRIDGE 2024

コンテスト賞金
総額 500 万円

事業ホームページ

静岡市では、革新的な技術・サービス・アイデアを有するスタートアップの「新たな知」と「地域社会の力」を活かし、共働による新しい社会システムづくりを促進しています。「静岡市が抱える課題」の解決に向け、スタートアップが持つ革新的な技術やサービスを活用した共創アイデアを広く募集します。

※本事業における「スタートアップ」とは、革新的な技術やアイデアを持つスタートアップ企業に加え、新規事業や第二創業に取組む企業など、スタートアップ以外の企業を含みます。企業の規模や設立年数は問いません。



- ✓ 審査は通過できなかったものの、以下の取組みを企画、提案。
「やりたいこと」を実現する障がい者の就労支援事業について



※観音寺の毛利さんと
タッグを組んで企画

- ✓ 子どもたちの支援に取り組むNPO法人と一般企業との協業は、取組みの推進や進化に**新しい可能性**をもたらします。



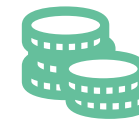
POINT

事業適用範囲の拡大

企業の経営資源やプロジェクトと結合することにより、対象者や場所などの範囲を拡大

事業継続性の向上

より明確なターゲットとエフェクト、それを実現するプロセスとプランの精度を向上させる



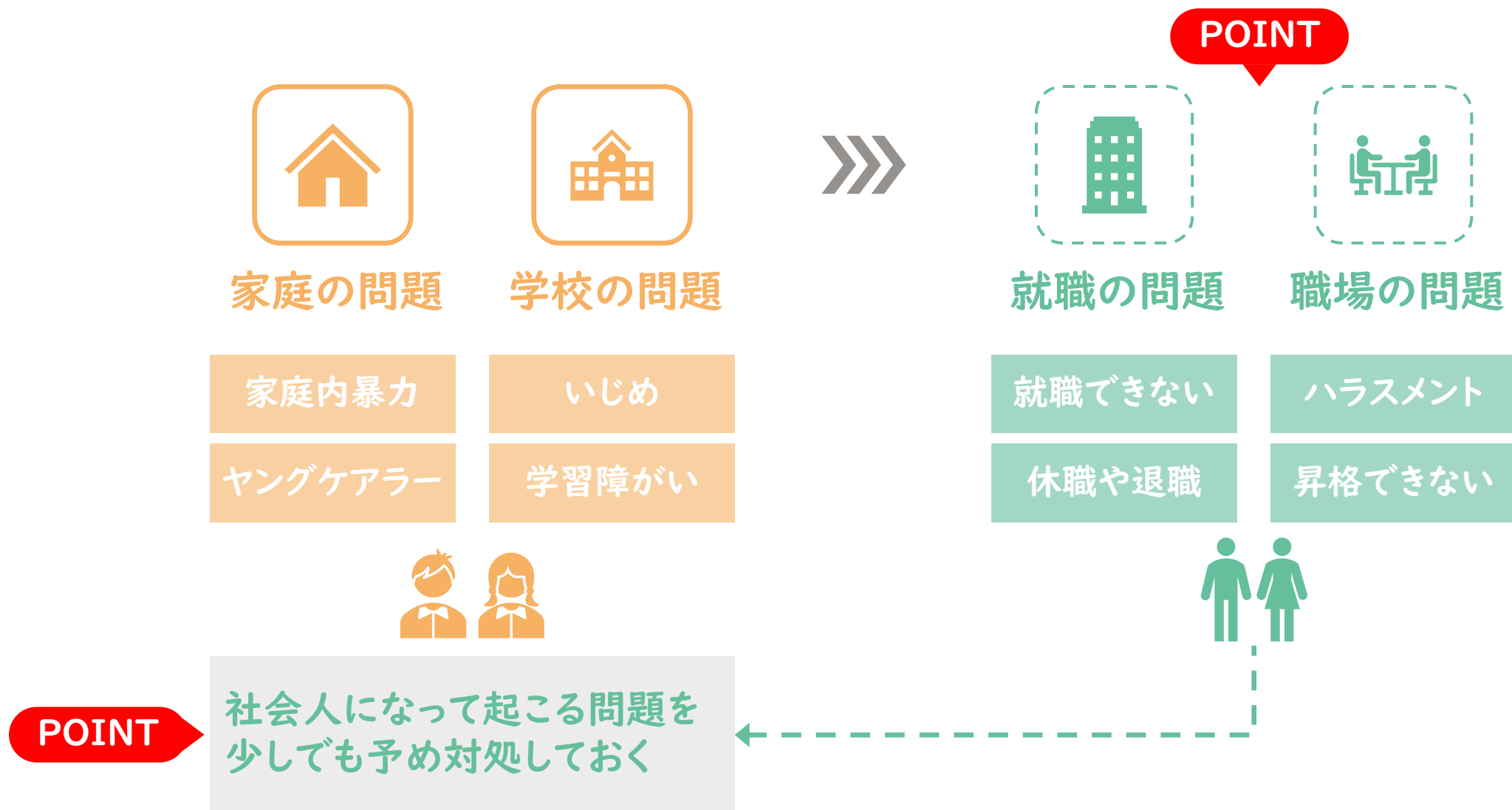
事業への新技術の活用

生成AIやメタバース、生体センシングなど、新しい技術の活用により事業内容を進化

事業へのファンドの確保

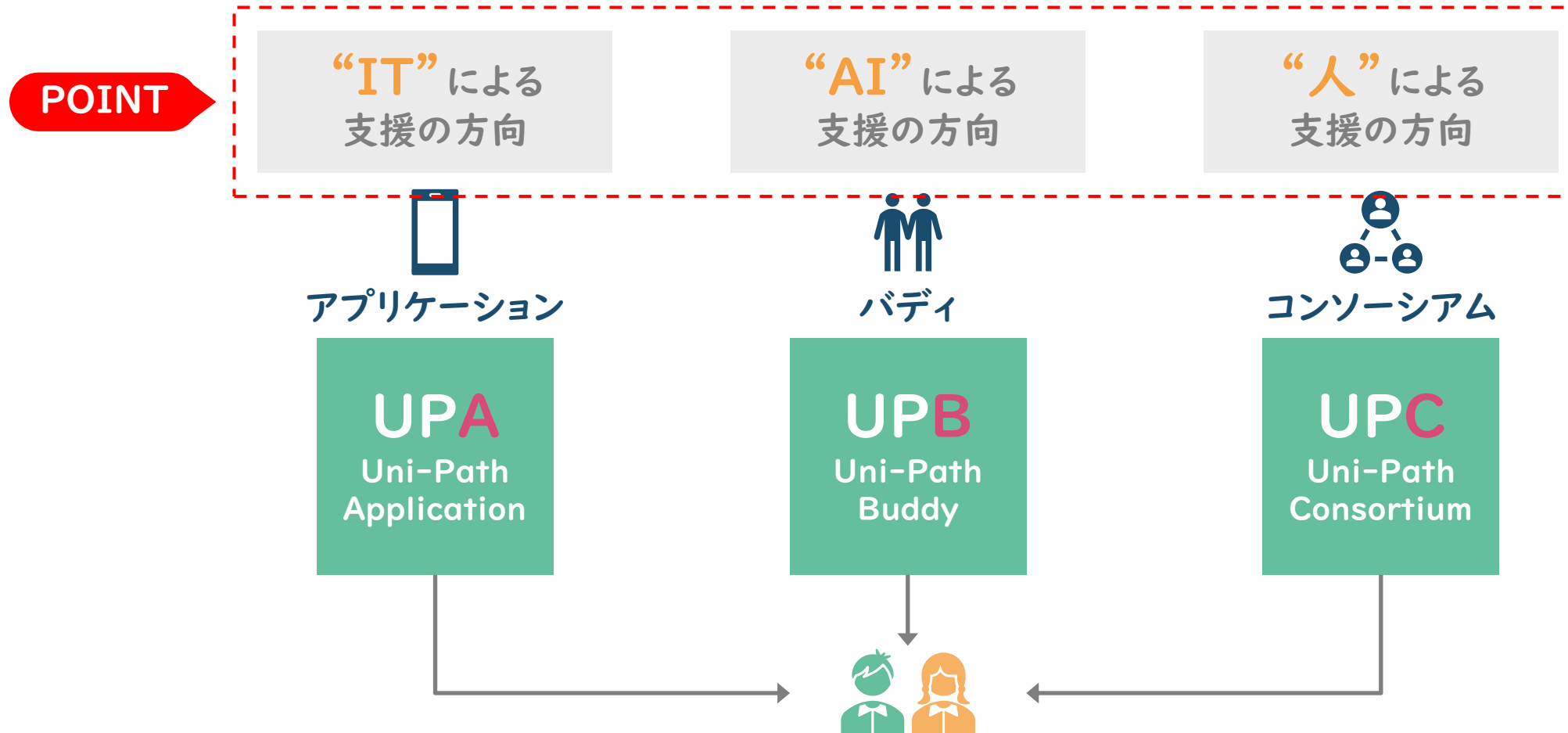
企業ニーズを収集、把握し、相互の事業と整合させることによりファンドを引き出す

- ✓ 子どもたちが今感じている生きづらさを支援しながら、**将来の問題、特に“働く”という「社会に出る上で必要となるコンテンツ」**についても活動の対象にしています。



5. 具体的な支援の仕組み

- ✓ 「認識の改善」、「つながりの構築」、「将来への準備」に取り組むためには、具体的な支援の仕組みが必要です。
- ✓ 私たちはそれを“ユニパスのABC”と呼称し、以下の3つの施策を実施します。



✓ “ユニパスのABC”を核としながら、様々な企画や構想を検討中です。

UPA
Uni-Path
Application

UPB
Uni-Path
Buddy

UPC
Uni-Path
Consortium

ユニパストーク

ユニパスインフォメーション

ユニパスワーク

ユニパススタディ

ユニパススコア

ユニパスキャンプ

6. むすび

- ① 生きづらさを抱えながら、ユニークな道を歩む子どもたちのことを「ユニパスさん」と呼ぶ
- ② ユニパスさんは不登校などの事象だけでなく、認識、原因のいずれかを保有する子どもが対象
- ③ ユニパスさんが孤立せず、安心して自らの道を歩んでいける世の中を創ることがミッション
- ④ そのために、「認識の改善」、「社会や人との関係構築」、「将来の課題への対処」に取り組む
- ⑤ 右目で子どもを見て、左目で社会の変化を捉える思考が重要
- ⑥ 企業を巻き込むことが重要（企業のノウハウ、人材、ツール、サービス、資金など）
- ⑦ 人による支援だけでなく、ITやAIを積極的に活用する



生きづらさを抱える子どもたちが孤立せず、
安心して自らの道を歩いていける世の中を創る



ユニパスさんと未来をつなぐプロジェクト



ユニパスさんと「人や団体」をつなぐ



ユニパスさんと「体験」をつなぐ



ユニパスさんと「情報」をつなぐ



ユニパスさんと「デジタル」をつなぐ (AIやメタバースなど)



ユニパスさんと「ワクワク」をつなぐ

是非本日ご参加いただいたみなさまと、つながりが持てることを期待しています！